なごや文化情報

2012
6
Jun.

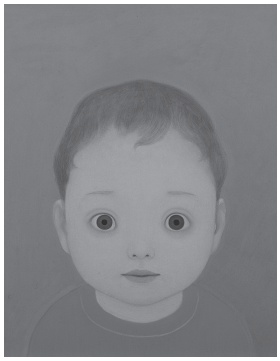
No.339

NAGOYA
Cultural
Information

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

Contents

六月のうた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
随想　鈴木 均 調律師 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
視点　トリエンナーレ以降の新たな動向 まとめ／田中由紀子・・ 4
この人と…　岡本信也さん（上） 聞き手／酒井晶代 ・・・・・ 6
ピックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
おしらせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9



表紙

作品
「子供の顔－オレンジのＴシャツ」
（2004年/454mm×380mm/木板・綿布・白亜地・テンペラ・油彩）

小学生の時、知的障害を持つ友達がいた。
肌は白く、髪と眼は鳶色をしていた。
木造校舎に差し込む斜陽の中に浮かび上がる髪は
柔らかく金色（こんじき）に輝いていた。

中澤　英明（なかざわ　ひであき）
1955年　新潟県生まれ
1981年　東京藝術大学大学院美術研究科修了
1996年　「子供の情景展」三重県立美術館
2004年　中澤英明「子供の顔」展 愛知県美術館
2006年　「内なるこども」豊田市美術館
2012年　「魔術／美術 幻視の技術と内なる異界」愛知県美術館
現在　　名古屋芸術大学美術学部教授

六月のうた

黒い巨牛

浅井 薫（あさい かおる）

あなたが
カメラで捉えた
黒い巨牛は
あばら骨が浮き出して
道路の交差点の真ん中に立ちどまり
じっとこちらを見つめている。
牛の頭上の信号機は消えたままで
その根元にはへし折られた
コンクリートの電柱が散乱して
人影は一つとしてない。
牛の背の向こうは
海にちがいない。
押し寄せる霧があたりに立ち込めて
葉を落とした細い木が一本
影のように
立っているだけで
あとはなにも見えない。

街路樹の葉の緑が
濃さを増す
大都市の中心街の
人と車が群れて絶え間ない交差点の真ん中に
黒い巨牛が立ちはだかっている。
あなたが捉えた
そのときのままの姿で
じっとこちらを見つめて
動こうとしない。

＊　参考＝写真家・幸田大地の撮影（2011年4月10日、福島県双葉郡富岡町）による『週刊金曜日』2012年3月30日号の表紙の写真。
（日本現代詩人会・中日詩人会）

随想

好奇心を持ち続ける

鈴木（すずき）　均（ひとし）（調律師）

初対面で、こちらが調律師と分かると「絶対音感があるんですか?」とか、「弾くのがお上手なんですよね?」と聞かれる。しかし、自分はそのどちらでもない。では、何で調律ができるようになったのか?

それは、音程間の振動数の誤差(うなり)を利用して、音階を精密に組立てる技術が確立されていて、それを耳で聞き分ける訓練を若い時に徹底的に受けたからだ。特殊な耳を持った人だけができるという事ではなく、やり方を学べば、普通の人でも調律はできるようになる。

でも、コンサートの仕事は調律学校を出たからできるものでもない。演奏家に定評のある何人かの先輩の仕事を見学させて貰い、演奏会に必要なノウハウを見聞するのが第一歩だ。いっぱしのプロの調律師と思っていても、演奏会の現場に行くと最初は知らない事ばかりだ。まず、演奏者の要求が良く分からない。ピアニストからは「もっと伸びる音、芯の有る音、暖かい音」など漠然とした表現の言葉ばかり。そんな言葉が技術的に翻訳でき、要求に応えられる技術を身につけるのに何年もかかってしまう。

例えると製菓学校で饅頭を作る技術は学べても、お茶席で茶人に認められる饅頭を作れるかは別物だろう。茶道を学び、厳しい注文主に鍛えられ、茶席のイロハを経験して必要な事が徐々に見え、少しずつ茶席の要求に応えられるようになるのではないだろうか?

時々、他の職人仕事をみると、施す技術は違うが行き着く所は似てるなと思う。つまり、人が心地よい、良い雰囲気だ、と感じる部分は分野が違っても、非常に似た所に収束していく気がする。餡を配合するのも、絵の具を調合するのも、酒の仕込み水を吟味するのも、調律師がハーモニーを響くようにし、音色を整えるのも、究極は心地よい気分に誘う為のプロセスではないだろうか?

どんな分野も長く続けると“伸びしろ”が少なくなってくる。そんな時、自分とは違う世界に関心を持ってみたりする。自分の本業とは違う分野を客観的に見ることによって、思わぬヒントが得られ、新たな進歩に結び付く場合もある。経験の浅い頃は同業の先輩の背中を見ながら学ぶ必要が有るが、ある程度経験を積んだ後は、むしろ異分野の世界に学ぶことで、自分の本業に応用出来るヒントが貰えるケースが多くなってくる。

一般に職人は同業者が同席するのは嫌うものだが、素人には自慢をしたがる傾向にある。これを利用して、機会があると異分野の達人に勘所を突いた質問をし、その仕事なりの苦労話やコツを聞き出すようにしている。それを自分の仕事に生かせる応用力が、思わぬ“伸びしろ”になるのだ。そんな為にも好奇心を持ち続けたい。

Report

視点

トリエンナーレ以降の新たな動向

一昨年の8～10月に開催された、愛知県で初となる国際芸術祭、あいちトリエンナーレ2010。24の国と地域から131組のアーティストが参加し、現代美術にパフォーミング・アーツや映像プログラムを併せた規模と複合性、積極的なまちなか展開により国内外の注目を集め、57万人超の観客を動員した。閉幕して1年半が経過したいま、名古屋エリアのアートシーンの変化を追った。（まとめ：田中由紀子）

一定の成功を収めたあいちトリエンナーレ2010

当初、想定されていた30万人を大幅に上回る約57万2千人の来場者を記録したあいちトリエンナーレ2010。県内における経済波及効果は約78億円、パブリシティ効果(広告費換算)も約47億円以上に上った。来場者アンケートでは、一般来場者の79.7%が「良かった」、76.7%が「また来たい」、中学生以下の86.6%が「楽しかった」、82.0%が「また来たい」と回答していることからも、来場者の多くがトリエンナーレを楽しみ、アートに親しんだことがうかがえる(動員数、経済波及効果、パブリシティ効果、アンケート結果の数値は、あいちトリエンナーレ実行委員会発行『あいちトリエンナーレ2010ダイジェスト』より)。

こうした成果を受けて、あいちトリエンナーレ2013の実施が早々に決定し、来年8～10月に開催することと、愛知芸術文化センターと名古屋市美術館、長者町・納屋橋地区などの名古屋市内のまちなか、岡崎市内のまちなかを会場とすることが、今年3月29日に発表された。岡崎市内のまちなか以外は前回から引き続き会場となるわけだが、なかでも長者町地区では、トリエンナーレ終了後もさまざまな取り組みが継続されている。

長者町にアートラボあいちが開設

アートラボあいち外観

前回のトリエンナーレの開幕からちょうど1年となる昨年8月21日に、トリエンナーレの会期中、ATカフェとして展示やイベント、情報スペース、カフェとして使われていたビルに、アートラボあいちが誕生した。トリエンナーレに関する情報を発信すると同時に、まちなかでのアート展開や地域の若手作家の活動などを支援していくことを目的としている。

アートラボあいち事務局が地下1階から2階を運営しており、地下1階は映像作品の上映やレクチャーなどが行われるイベントスペース、1階は次回のトリエンナーレの最新情報などを紹介する情報スペース、2階は展覧会が行われるエキシビジョンスペースとなっている。さまざまな団体にスペースを貸し出すほか、昨年度は若手作家の平面作品を展示するALAProjectや、公募により選ばれた作家の展覧会を行うアーティストサポートプログラム、テーマに基づき各分野の団体や個人が活動について話し合うネットワークミーティング、アーティストがポートフォリオ(作品の写真ファイル)を持ち寄り、作品や制作についてプレゼンテーションするポートフォリオミーティングなどの自主企画が行われた。3・4階は東海エリアの大学が運営し、学生や卒業生を中心とした展覧会や映像作品の上映会などが実施されている。

ジャクソン・ポロック展関連ワークショップ「ドリッピングに挑戦」

こうした取り組みをとおして、前回のトリエンナーレの盛り上がりを次回につなげていくのはもちろん、地域のアーティストに発表の場を提供し、地元のギャラリーやオルタナティブスペースとも連動していくアートセンターとしての役割が期待されている。

ネットワークミーテ ィング第2回「教育とアート」

サポーターズクラブから新たな組織が発足

トリエンナーレの会期中、ATカフェを拠点に活動していたサポーターズクラブメンバーが、トリエンナーレ終了後も

アートを楽しみたいと、ボランティア、アートファン、長者町ファンと共に昨年1月に立ち上げたのが、長者町まちなかアート発展計画だ。

「アートを表現することではなく、アートへの関わり方を模索し、表現していく」ことをコンセプトに、長者町を舞台に、人とまちとアートが出会うきっかけをつくることを目的に、まちなかでのワークショップやトークイベントなどを企画・運営している。メンバーは、20〜60代の会社員や主婦、学生などで構成されており、トリエンナーレで初めてアートに触れたという人や、しばらく遠ざかっていたがトリエンナーレを機に再びアートを見るようになったという人も。

昨年の7〜8月には、アートプロジェクト「ちいさなアートジャンボリー 2011」を開催。石田達郎の作品展示や山本高之による子どもファッションショー、キリコラージュによるダンスワークショップ、柴幸男、杉原邦生の演劇ワークショップなどを実施し、長者町の人々やアートファンを動員。今年も7月21日〜8月12日に予定されている。

ゑびすビルPart1屋上で開催された「長者町Beerジャンボリー」

また、Arts Audience Tables ロプロプは、サポーターズクラブで行われていたトリ勉(トリエンナーレ勉強会)から発展した組織。トリエンナーレ終了後も、作家やキュレーターを迎えたトークや展覧会レビューのライティング講座などを企画・運営していたが、今後は現代美術、ダンス、演劇、映像など同時代の芸術文化を、鑑賞者の立場から「ともに体験する・学ぶ・伝える場(=テーブル)」をつくる活動を展開していくという。

長者町まちなかアート発展計画もArts Audience Tables ロプロプも、作家でもキュレーターでもない人々が、アートに触れる機会を誰かから与えられるのを待つのではなく、自ら考えて機会をつくることをとおして、アートに関わり、アートを楽しんでいる。名古屋のアートシーンを牽引していく鑑賞者の自主性を育んだのは、あいちトリエンナーレ2010の成果と言っていいだろう。

長者町にアートな新名所が登場

さらにこの春、長者町地区には新たな動きが見られる。長者町通の空きビルがリノベーションされ、長者町トランジット・ビルとして5月下旬にオープンする。アートユニットN-markが運営に関わるこのビルには、アーティストやクリエイターの共同スタジオやアトリエ、建築やデザインの事務所、カフェなどが入居し、ビル全体がアートをキーワードにトータルプロデュースされ、緩やかに関連した一つのコミュニティとなるよう計画されている。

4階に開設されるアートセンター〔Yojo-Han〕は、名前のとおり四畳半程度のスペースだが、運営に関わるアーティストの山田亘、岡川卓詩、村田仁、安原弘高がスクールや放送局、展覧会、イベントなどを多層的に行っていくという。また、『痕跡本のすすめ』で注目を集める古沢和宏が店主を務める古本のセレクトショップ、五っ葉文庫が、1階のカフェの書棚スペースを利用して展開されるのも楽しみ。

リノベーション中の長者町トランジット・ビル外観

長者町トランジット・ビルの登場で、長者町はますますおもしろくなりそうだ。

あいちトリエンナーレ2013に向けて

冒頭のアンケート結果からもわかるように、あいちトリエンナーレ2010は多くの来場者のアートへの潜在的興味を掘り起こした。だが、それが一過性の現象ならばそれほど意味はない。導入は「楽しい」「ビックリ!」といった切り口でかまわないが、じっくりと作品と向かい合い、作品をとおして自己と向かい合う場面をつくっていかなければ、鑑賞者のボトムアップは望めない。そのためには、トリエンナーレが閉幕し、次回が始まるまでの地域の美術館の活動がよりいっそう重要になってくる。3年に一度のトリエンナーレは、起爆剤にすぎない。

地域の美術館の取り組みで注目したいのは、トリエンナーレに直接関係するものではないが、今年4月から愛知県美術館でスタートした「APMoAプロジェクト・アーチ」。これは、学芸員がいま紹介すべき作家を選び、企画展の会期に合わせてコレクション展の一室を使って行う展覧会だ。また名古屋市美術館では、過去3回にわたり開催された「ポジション展」が9年ぶりに復活(会期は6月2日〜7月16日)。名古屋エリアを拠点とする10人の作品が、個展形式で展示される。

言うまでもないが、「楽しい」「ビックリ!」だけがアートのおもしろさではない。唯一無二の答えがあるわけではない作品を前にして、「こういう意味かもしれない」「いや、そうではないかも」と考えを巡らす。「APMoAプロジェクト・アーチ」や「ポジション展」では、そんな体験がしたい。なぜなら、答えがないことに向き合うことこそがアートのおもしろさであり、自分なりの答えにたどり着こうとあれこれ考えることが自分自身を成長させるのだから。

この人と…

考現学採集・野外活動研究

岡本 信也さん 上

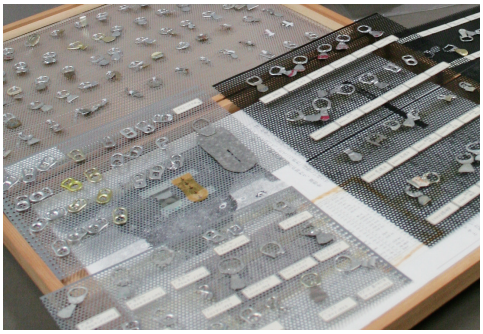
モノが暮らしを映しだす

「考現学（モデルノロヂオ）」という分野をご存知だろうか。遺跡の出土品からいにしえの人々の生活が浮かび上がるように、身のまわりの暮らしや風俗をつぶさに観察・採集・記録することを通して現代の生活文化を研究する学問で、関東大震災後に今和次郎（1888～1973年）らによって提唱された、いわば考古学の現代版にあたる。岡本信也さんは名古屋を拠点として、この考現学に40年近く取り組んでこられた。生い立ちから野外活動や考現学採集の面白さ、現代風俗の特徴まで多岐にわたったお話から、今回は考現学採集を本格的に開始するまでの歩みをご紹介したい。

（聞き手：酒井晶代）

プルリングも現代の「遺物」

取材の場に持参してくださったのは、多数の空き缶のふた（プルリング）。1980年代に路上で採集したものという。整然と並んだふたを見ていると、形や大きさに微妙な違いがあることに気づく。なかには商品名が印刷されたものや、値札シールが貼りついたものも。「折れ曲がり方にも注目してみてください。縦に折れたモノはまれで、たいていは横に折れているでしょう」と岡本さん。材質は何か、どこに落ちていたか、何に踏まれたかによって傷み具合はさまざまで、観察のポイントになるという。



プルリング拾い集め（1986年から）

無機質な金属製のモノのなかに、それを使用した人の痕跡がたしかに残されている面白さ。空き缶のふたも最近はステイオンタブが主流になり、取り外し式のプルタブは姿を消しつつある。博物館に展示される土器や石器のように、プルタブもある時代の生活文化をあらわす「遺物」になる日が近いかもしれない。考現学は、未来人の考古学でもあるのだろう。

原点としての焼け跡

岡本さんは1940年、名古屋市西区塩町（現在の西区幅下）の生まれ。空襲で焼け出されて北区に転居し、まもなく終戦を迎える。お父さまは西区時代に測量器具を商っておられたといい、暮らしの観察のためにさまざまな計測器（次号で紹介予定）を持ち歩く岡本さんが、幼年期を「はかる道具」に囲まれて過ごしたことは興味ぶかい。

「兄と姉がいる末っ子ですからね、どちらかというとおとなしい、物怖じしやすい子どもだったでしょうか。幼いころの記憶はほとんどが空襲にまつわることです。焼け跡で育ち、瓦礫が遊び場でした。ガラクタ好きの原点は、案外こういうところにあるのかも知れません。子どものためのおもちゃが乏しい時代でしたから、早いうちから大人の文化にアクセスして育ちました」

考現学では見たものをスケッチで記録したり、結果を一枚の図で表現（図解）したりする方法が用いられる。絵は子どもの頃から好きで、思うように描けず、教室で突然泣

き出した思い出もあるという。いわゆる児童画ではなく、大人の絵を描く子どもだったそうだ。

美術と工学のあいだで

明和高校在学中は美術部に所属。名古屋工業大学に進学後は「愛知学生美術連盟」という団体で活動し、学生だけで愛知県美術館を借り切って展覧会を開催したことも。180号もの大作を美術館までえっさえっさと運び、展覧会の様子は新聞でも報じられた。

「大学では窯業工学を専攻しました。耐熱ナベの開発といった、社会に役立つモノづくりを目指す学問です。現在のセラミック科にあたる専攻ですね。焼き物からセメント、ガラスまで幅広く学びましたが、土まみれになることが苦手でデザインに惹かれていきました」

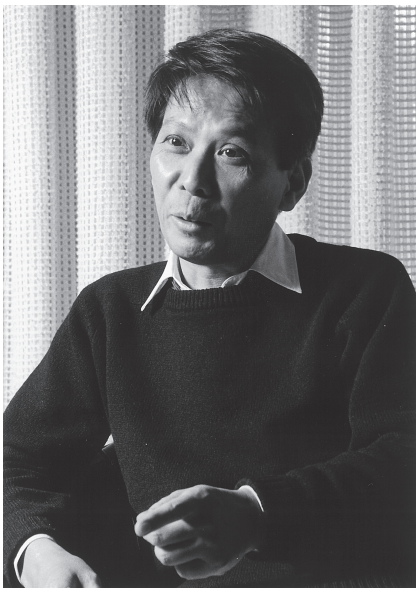
「前衛的な芸術に触れたり、触発されて抽象画に熱中したりもしましたが、実学的な大学での勉強に対する反発といった意識はなかったように思います。むしろ1960年代の若者たちのムーブメントに感化された結果でしょう。面白い時代でした。でも絵を仕事にしようとは考えませんでした。自分にはそうした生き方はできないと、どこかで考えていたフシがあります。大学卒業後、25歳で絵から離れました」

業界誌の編集者として

1962年、大学を卒業した岡本さんは名古屋市内の焼き物関連の出版社に入社する。

「『食器』という季刊の業界誌や名簿、カタログづくりなどの仕事をしました。デザイナーとして採用されたのですが、7、8名ほどの小さな会社ですから本の発送から取材、執筆、レイアウト、校正…と我流で取り組むなかで、編集という仕事の面白さに目覚めました。当時すでに『暮しの手帖』で取材から誌面デザインまで担っておられた花森安治さんの存在も大きかったですね。その後、編集者として40代前半まで真面目なサラリーマン生活を続けました」

「名古屋は1970年代前半まで陶器の輸出がとても盛んでした。スポンサーにも恵まれ、良い時期に編集の仕事ができたと思います。取材を通してたくさんの方に出会うことができましたが、雑誌ではページ数の限界があって取材したことを全て書くことは困難ですし、もう少し調べたいと思っても締め切りとの兼ねあいでかなわないこともあります。取材して、調べて、納得したものを自分で出せたらという思いが次第にふくらんでいきました。一方で家にこもるのではなしに、旅をしたいという願いもありました。70年代初頭は国鉄が「ディスカバー・ジャパン」のキャンペーンを開始した時期です。このころから若い人たちと総勢20人ほどで山村や離島に出かけて、日常の暮らしを取材・記録する野外活動=フィールドワークを始めました」



1986年、中区の自宅にて（46歳）

1986年、岐阜県徳山村にてフィールドワーク（衣類について調査）
左は民俗学の脇田雅彦氏

「野外研」発足のころ

サラリーマン生活と並行して「野外活動研究会」を立ちあげ、フィールドワークを本格的に開始したのは1974年。仲間とともに最初に訪れたのは鳥羽市神島だった。岡本さんはのちに当時を振り返って、次のように書いている。

「ちょうど日本でオイルショックがさわがれた頃である。新しい製品がどんどん登場し、古くなった服や道具、建物が捨てられ、こわされていくなかで、青春期を過ごした人たち。その人たちの一部が、使い捨ての文化に気づき、村や町の生活や風俗を見て歩きだした。

ぼくらはどこから来て、どこへ向かって進むのだろう。そんな漠然とした生活の不安があった」（『くらしの観察展』図録、1989年）

田中角栄らによって「日本列島改造論」（1972年）が発表されたこの時期は、地方の暮らしが大きく変わりつつあった転換期にあたる。考現学という分野の存在を知ったのは数年後のことといい、研究会のメンバーは学問的な好奇心以上に、自らの生き方に立脚した動機から「暮らし」や「生活」の調査研究に向かっていく。（次号に続く）

インフォメーション

特別展「今和次郎採集講義…考現学の今」

4月26日（木）から 6月19日（火）まで国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園）で開催中。
5月27日と6月9日には関連イベントとして、岡本信也さんと岡本靖子さんによるワークショップ「みんぱくを飛び出してモノ調べ・風景調べ」が開催される（応募締切済）。
※詳細はホームページ　http://www.minpaku.ac.jp/ をご参照ください。

ピックアップ

宗次エンジェルヴァイオリンコンクール～入賞者によるガラコンサート

2007年3月の開館以来、夜の公演だけでなく「ランチタイム名曲コンサート」や昼下がりの「スイーツタイムコンサート」を展開して主催公演数、入場者数を順調に伸ばしている名古屋市中区栄の宗次ホール。クラシック音楽の普及とともに演奏家の育成と支援にも力を注ぎ、2年に1度「宗次エンジェルヴァイオリンコンクール」を催している。入賞者にはヴァイオリンの名器を2年間無償貸与。第3回の昨年は東日本大震災の直後、多くのコンサートや催し物が中止される非常事態の中で行い、若い才能を発掘し育てるというコンクールの目的を貫いている。その時の入賞者によるガラコンサートが3月31日に開かれ、名器を貸与された3人のヴァイオリニストたちの1年間の成長ぶりが披露された。

演奏に先立ち、2011年度の名古屋市芸術奨励賞を受賞された宗次徳二オーナーが舞台でご挨拶。3人の近況について、また、前日に東京でも同じコンサートが開催されたことをお話しされた。

前半は第3位の岸本萌乃加さんと第2位の松川暉さん。今春東京芸術大学に進学する岸本さんは、1831年製のジョヴァンニ・フランチェスコ・プレッセンダを弾き、心優しい叙情的な調べを紡いだ。東京芸大を休学してイギリスに留学中の松川さんは1764年製のミケランジェロ・ベルゴンツィ。のびやかな音楽性を発揮し、スケールの大きさを示した。

後半は第1位のキム・ダミさん。韓国出身のキムさんは、外国人音楽家が本国からの帰国勧告を受けて次々と日本を離れていく昨年3月の状況下で日本にとどまり、コンクールに挑み見事優勝をはたした。1697年製のストラディヴァリウス「レインヴィル」を手にし、この日はバルトークのヴァイオリン・ソナタ第2番とサラサーテの《カルメン幻想曲》を演奏。目のさめるような鮮やかなテクニックと深い洞察にみちた解釈は成熟の域にあり、これからのいっそうの飛躍を予感させた。今年は難関で知られるエリザベート王妃国際音楽コンクールに挑戦するということである。

名古屋のコンクールで得た自信と素晴らしい楽器を糧にして羽ばたく若いヴァイオリニストたちの今後を見守りたい。（O）

演奏の前に　宗次徳二オーナー

第1位のキム・ダミさん

おしらせ

Information

高校生からシニアまで世代をこえた仲間で贈る“みんなのリーディング”
「KANOKO」出演者募集

本格的な舞台を体験するチャンス到来!! 照明、音響、舞台美術…専門家によって創り上げられる舞台が、あなたを待っています。テーマは太陽の塔を創り上げたあの有名な芸術家、岡本太郎の母「KANOKO」（マキノ ノゾミ原作）。劇的な生涯を歩んだ女性の人生を描きだします。プロの演出家、講師が丁寧に指導しますので、経験のない方でも心配はありません。夢のような「ドラマリーディング」の世界に思い切って足を踏み入れてみませんか?

〈構成・演出〉
はせ ひろいち

〈講　師〉
本岡 銀子

オーディション

- 日　　時　8月18日（土）
- 会　　場　名古屋市青少年文化センター　第1スタジオ
- 内　　容　短い作品（課題）を読んでいただく、簡単なオーディションです。
- 応募資格　高校生以上でお芝居に興味があり、練習及びリハーサル、公演に必ず参加できる方。（練習日数が少ないため、欠席はできません）※過去の出演者は応募不可。
- 募集人数　30人
- 応　募　料　無料（ただし、出演が決まった方はテキスト代、傷害保険代を含む練習費用5,000円が必要です）
- 応募方法　所定の応募用紙を郵送してください。（郵送が難しい場合は、FAXでも受け付けます）
- 締　　切　<郵送> 7月30日（月）（消印有効）　<持参> 7月31日（火）17:00まで

公　　演

- 日　　時　12月1日（土）14:00開演
- 会　　場　名古屋市芸術創造センター
- 入　場　料　1,000円<全自由席>※販売にご協力いただきます。
- 主　　催　公益財団法人 名古屋市文化振興事業団、名古屋市
- 助　　成　芸術文化振興基金
- 後　　援　名古屋市教育委員会
- 問い合わせ　名古屋市文化振興事業団 事業案内
  TEL 052−249−9387　FAX 052−249−9386

平成 23 年度「いろとりどりのラブレター」

Information

なごや子どものための巡回劇場（上期）

なごや子どものための巡回劇場は、日ごろ生の舞台に接する機会の少ない子どもたちに、テレビ等では味わえない感動を伝えたいと、昭和55年から始まりました。お近くの会場へ、ご家族あるいはお友だち同士で、お気軽にお出かけください。

- 料　　金　子ども（3歳以上中学生以下）500円
  おとな　800円
  <全自由席>
- 主　　催　なごや子どものための芸術劇場実行委員会
  （名古屋市、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、愛知児童・青少年舞台芸術協会）
- 後　　援　名古屋市教育委員会、名古屋市子ども会連合会
- 問い合わせ　名古屋市文化振興事業団チケットガイド
  TEL 052−249−9387
  FAX 052−249−9386

総合劇集団俳優館

ミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」
7月27日（金）千種文化小劇場
7月28日（土）中川文化小劇場
8月 1日（水）南文化小劇場
8月 2日（木）名東文化小劇場
11:00、14:00（2回公演）
6月1日（金）発売

越智インターナショナルバレエ

「白鳥の湖」全幕
8月11日（土）天白文化小劇場
8月12日（日）中村文化小劇場
8月15日（水）守山文化小劇場
8月16日（木）緑文化小劇場
11:00、14:30（2回公演）
6月1日（金）発売

名古屋フィルハーモニー交響楽団

名フィルがやってきた！
8月2日（木）昭和区役所講堂
8月3日（金）北文化小劇場
11:00、14:00（2回公演）
5月30日（水）発売

名古屋三曲連盟

和楽器に親しみを！～箏・三味線・尺八～
8月18日（土）瑞穂区役所講堂
8月19日（日）中区役所ホール
11:00、14:00（2回公演）
6月6日（水）発売予定

ショートストーリーなごや 第6回コンテスト事業

～名古屋を舞台としたショートストーリーを募集します!

名古屋の魅力を発見し広く発信するために、有名な観光地はもちろん、あまり知られていない魅力的な場所や、日ごろ見かける道、河、路地裏、公園など、自分だけのお気に入りの場所―そんな名古屋の魅力的な場所が描かれたショートストーリーをお待ちしています。

第5回受賞作品集

副賞 大賞1編50万円　佳作2編10万円

最終選考委員（50音順）
委員長　清水　義範（作家）
委　員　清水　良典（文芸評論家）
堀田　あけみ（作家）
まなべ　ゆきこ（脚本家）
三田村　博史（作家・中部ペンクラブ会長）

応募資格 不問　※ただし前回の受賞者は応募不可です。

募集要項
■募集作品
次の(1)～(3)に該当するショートストーリー（短編小説のこと。日記、エッセイ、評論、また映画や演劇等のシナリオは不可）とします。
(1)名古屋を舞台とした作品であること
※名古屋市内の地名や場所が読者に分かる内容としてください。
(2)日本語、縦書きで、1ページあたり40字×40行で3枚から5枚
（手書きの場合は400字詰原稿用紙9枚から20枚）の作品であること
※作品タイトル、行末の句読点や括弧は除きます。
(3)応募者が創作した未公表の作品であること
※なお、作品中に別の著作物等が含まれる場合には、著作権者等の許諾を得たうえで、その旨を作品の欄外等に記載してください。
■提出様式　次の(1)～(4)のとおりご提出ください。
(1)作品原稿とは別に応募票を添付
※応募票は、ウェブサイト(http://www.s-story.org/)よりダウンロードしてください。
(2)1ページ目の原稿用紙欄外や余白等に作品タイトルを、また全ての原稿にページ数を明記
※名前など、作品タイトル及びページ数以外の事項は、一切記載しないでください。
(3)原稿・応募票ともにA4規格の用紙を使用
※郵送・持込の場合は、ホッチキスや紙紐などで綴じないでください。ただしゼムクリップは可とします。
※メール応募の場合は、原稿・応募票ともに本文に記載せず、添付ファイルにてご応募ください。

応募締切 9月30日(日)<必着>　**発表** 平成24年1月頃、受賞者に通知します。

諸権利等 受賞作品の著作権等諸権利は主催者に帰属するものとします。応募作品の返却はしません。

主催 ショートストーリーなごや実行委員会　**公式ウェブサイト** http://www.s-story.org/
【構成／名古屋市、中日新聞社、スターキャット・ケーブルネットワーク(株)、(公財)名古屋市文化振興事業団】

応募先 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18-1　ナディアパーク8階
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　E-mail s.story@bunka758.or.jp

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 事業案内　TEL 052-249-9387　FAX 052-249-9386
※作品の到着確認や選考に関するお問い合わせにはお答えできません。

舞台VTR映像専科
ステージの感動を格調高い映像で追求します。

ビデオソフトの企画・制作
有限会社 エーワン.ビデオ.システム
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

TOKAI VIDEO SYSTEM
ハードシステム部門
AV機器販売部門（家庭用）
映像企画・制作部門
放送関連部門
機器設備レンタル部門
映像メディアの未来を創る
生きた情報を発信
TVS 株式会社 東海ビデオシステム
名古屋市中区上前津二丁目14-15　TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)

innovason Ether ES Sound
L-ACOUSTICS lake whirlwind
■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守
A&V Professional Use
株式会社エーアンドブイ
〒464-0846
名古屋市千種区城木町二丁目98
TEL052（761）5400
FAX052（761）0909

アートピア主催事業のご案内

子どもアートピア探検ツアー ～ダンスをおどってみよう!～

普段見ることのできない舞台の裏側を見学した後、短いダンスステージをご覧いただき、その照明や音響の設備などを実際に体験して頂きます。
そして簡単なダンスを覚えてみんなで踊ってみましょう!

日　　時　平成24年7月25日(水)　START ／ 13：30～
会　　場　青少年文化センター　アートピアホール
デモンストレーション・指導　スタジオフィネス　　参加費　無料
募集人数　小学校1～6年生の児童とその保護者（3名以上でも可）
30組程度（応募者多数の場合は抽選）
申込方法　往復はがきにて、下記の内容をご記入のうえ、7月17日(火)<当日消印有効>までにお申し込みください。
①参加者氏名・性別・年齢(児童、保護者とも、ふりがなを付記。児童は学年も記入)　②住所　③電話番号
申込・問い合わせ　〒460-0008　名古屋市中区栄三丁目18番1号　ナディアパーク内
名古屋市青少年文化センター「アートピア探検ツアー」係
TEL 052-265-2088　FAX 052-265-2187

第4回アートピア　子どもワークショップフェスティバル

夏休みの1日、楽しいワークショップにお弁当持参で参加しませんか?
手作りおもちゃ、フラワーアレンジ、人形つくって劇あそび、万華鏡つくり、腹話術体験、お琴の体験をしたりなど、とっても楽しい内容です。それぞれのワークショップと午後の発表会の両方に必ず参加してください。

開催日時　平成24年7月30日(月)　10：00～15：10まで
時間割
10：00～10：15　はじめの会（講師・講座紹介）
10：30～12：00　それぞれのワークショップ（午前の部）・体験広場（随時）
12：00～13：00　各自昼食
13：00～14：30　それぞれのワークショップ（午後の部）（午前・午後通しもあり）
14：30～15：00　おわりの会（各講座の発表会）
15：10　終了
会　　場　青少年文化センター　スタジオ・研修室・練習室など
申込方法　往復はがきにて下記の内容をご記入のうえ、7月6日(金)<当日消印有効>までにお申し込みください。
(応募者多数の場合は抽選。幼児・小学生は保護者同伴)
①参加したいワークショップ名　②参加者氏名(5人まで)・性別・学年か年齢(児童、保護者とも。ふりがなを付記)　③住所　④電話番号
申込・問い合わせ　〒460-0008　名古屋市中区栄三丁目18番1号　ナディアパーク内
名古屋市青少年文化センター「ワークショップフェスティバル」係
TEL 052-265-2088　FAX 052-265-2187

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
講座名	木のおもちゃ工作	子どもフラワーアレンジ	人形つくって劇あそび	ビニールホースを使った万華鏡を作ろう	たのしい腹話術	木目込みカエルとフクロウ	つくってあそぼう紙工作	やさしい手袋人形	伝承玩具〈ぱたぱた〉を作ろう	体験広場「お琴を弾いてみましょう」	体験広場「リズムダンスを踊ろう」
講師名	三輪義信	田中明日香	川村　厳 岩井田浩江	安井伸子	ダンディ三浦	鈴有美子	大谷孝雄	細田愛子	細田愛子	八事箏曲の会	キーツクラブ会員
対　象	小学3年生～大人	幼児～小学生	小学1年生～大人	小学1年生～大人	小学4年生～大人	小学3年生～大人	小学1年生～大人(幼児は親子で)	3才～8才	小学生(幼児は親子で)	幼児～大人	小学1年生～大人(幼児は親子で)
定　員	15名	各12名	20名	各20名	12名	15名	45名	12名	12名	先着順(随時)	先着順(随時)
参加費	1,200円	800円	800円	1,000円	200円	900円	100円	500円	500円	無料	無料
持ち物	木工用ボンド・はさみ	はさみ 午前・午後の2回開催	筆記用具	はさみ、スティックのり、ビーズやかざり 午前・午後2回開催	午後のみ開催	布用の小さなはさみ	随時参加可	午前のみ開催	午後のみ開催		

名古屋市民会館の名称(愛称)が、平成24年7月1日から変わります

名古屋市民会館のネーミングライツ・パートナーが、平成24年7月1日から、日本特殊陶業株式会社に変わります。これにともなって、施設名、ホール名等が下記のように変わりますので、ご理解いただきますようお願いします。なお指定管理者に変更はございません。

新名称

施設名	日本特殊陶業市民会館(にっぽん)
大ホール	フォレストホール
中ホール	ビレッジホール
地下鉄連絡通路	日本特殊陶業市民会館連絡通路

問い合わせ　名古屋市市民経済局文化振興室文化施設係　052-972-3175

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人（椙山女学園大学文化情報学部教授）
小沢優子（名古屋音楽大学講師）
倉知外子（オクダ モダンダンス クラスター副代表）
酒井晶代（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授）
田中由紀子（美術批評／ライター）
はせひろいち（劇作家・演出家）

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

Information

名古屋能楽堂7月定例公演〈市民能楽セミナー〉

◆能・狂言と文学—時代を越える“ことば”と“こころ”—

室町時代前期に大成した能・狂言は、それ以前に成立した古典文学から題材を得て作られました。そして、能・狂言もまた、後代の文学に影響を及ぼしています。今年度の定例公演では、近現代の小説や戯曲の題材となった能・狂言の作品を主に取り上げ、時代を越えて受け継がれてきた日本文学の魅力をお伝えします。7月公演は、平家物語を題材とする能「俊寛」をお贈りします。『市民能楽セミナー』は、能楽の普及のため〈低料金・解説付〉にて実施する公演です。

能「俊寛」

能　『俊　寛』（観世流）　シテ 梅田邦久
狂言『薩摩守』（和泉流）　シテ 鹿島俊裕
解説「能の装束」（30分）　梅田邦久

日　時　7月1日（日）14:00
会　場　名古屋能楽堂
料　金　〈指定席〉3,000円
〈自由席〉一般2,000円／学生1,000円
※友の会会員は1割引（前売のみ）
※自由席は当日500円増
問い合わせ　名古屋能楽堂　TEL 052-231-0088　FAX 052-231-8756

Information

ナゴヤアートナビ 催し物掲載のご案内

今日どこ行こう? 明日なに演ってるの? 知りたいときにアートナビ!

ナゴヤアートナビ　検索

「ナゴヤアートナビ」ウェブサイトでは市内文化施設の催事案内のほか、市民主催の催し物をご紹介しています。掲載を希望される方はホームページ（http://www.art758.jp）にアクセスしてお申込みください。ご応募お待ちしております。

問い合わせ　名古屋市文化振興事業団事業案内　TEL 052-249-9387

NAGOYA ART NAVI nan

Information

名古屋市文化基金のご案内

名古屋の文化を創るのは、あなたです。

名古屋市文化基金（名古屋市市民文化振興事業積立基金）は、市民生活に潤いをもたらす名古屋の文化の発展のために、昭和57年に設置されました。この基金は、皆様からのご寄附と市の出資金を積み立て、その運用による果実（利息）で、市民の文化振興のための事業を実施することに役立てられています。
皆様からのご寄附をお待ちするとともに、今後もご支援、ご協力をお願い申し上げます。

参加体験事業	鑑賞事業	支援育成事業	情報発信事業
市民の皆様が参加・体験できる事業を積極的に展開しています。	伝統芸能をはじめ、優れた舞台芸術を紹介しています。	市民の皆様が行う創造的な文化活動を支援しています。	「なごや文化情報」などを発行し、文化情報を広く提供しています。

名古屋市文化基金は、ふるさと寄附金（納税）制度の適用対象となります。

※名古屋市民の皆様方が、名古屋市文化基金に寄附される場合も、この制度によって税額控除を受けることができます。
税控除等の詳細につきましては、リーフレット又は市公式ウェブサイトをご覧ください。

問い合わせ
名古屋市市民経済局文化振興室　TEL 052-972-3172
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　TEL 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト　トップページ
文化　基金　検索

感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金

平成24年5月25日発行（毎月1回25日発行）通巻339号 編集発行／公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 〒460−0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 TEL（052）249-9385 FAX（052）249-9386 HP http://www.bunka758.or.jp/

デザイン・印刷／山菊印刷株式会社　なごや文化情報は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。